

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 29 日

所属部局・職	霊長類研究所・博士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) ケニア、ナイロビ	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) 国際霊長類学会	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) 平成 30 年 8 月 18-29 日 (11 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) United Nations Office in Nairobi (UNON)/ マサイマラ国立公園	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) 写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 2018 年 8 月 18-28 日の日程で第 28 回国際霊長類学会に参加した。自身の研究を発表すること、海外の研究の動向を把握すること、ケニア内の国立公園を視察することが目的であった。 自身の研究発表は、口頭、ポスターそれぞれ一本ずつ発表した。口頭発表は大型類人猿の集団間関係についてのシンポジウムの中でおこなった。内容について、海外の研究者からコメントをもらい、勉強になった。また、シンポジウムに集まった多くの人に私の研究を知ってもらえたのも良かったと思う。 ポスター発表では、既出版済みのボノボの父子判定の結果について発表した。発表には様々な種を研究している研究者が聞きに来てくれた。ボノボ以外の種を研究している研究者にも、名前を覚えてもらえればうれしいと思う。 また、今回の学会では多くの海外の研究者と関係を築くことができた。これまで会ったことはなくても、私の論文を読み、私の名前だけ知っている人が何人かいた。やはりパブリケーションは大切だと思った。また、霊長研の先生方に、私が話したいと思っていた著名な研究者を紹介していただいた。何人かには彼らのフィールドにも誘っていただき、非常に貴重な機会であった。今後は海外の研究者との共同研究にも、もっと積極的になっていきたい。 国立公園の視察では、多くのアフリカ大型哺乳類を初めて見た。野生動物の美しさを肌で感じ、改めて純粋な気持ちで研究に取り組もうと感じた。全体を通して、実りの多い出張だったと思う。この経験を今後の研究活動に活かしていきたい。	
	
口頭発表	ポスター発表

6. その他 (特記事項など)

この学会の参加にあたり、PWS リーディング大学院プログラムからの支援を受けました。PWS プログラム、様々な場を取り持ってくださいました松沢哲郎教授、古市剛史教授、国立公園視察に同行して下さった辻大和助教に感謝申し上げます。

<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org